



この店の主、テラゾーカウンター。
2週間かけて研ぎ上げたオーガニック面がこの店の魂。
床の黒御影石が盛り上がり、腰は黒アクリルとツヤが空のクリスタルへ続く。
そこでのポイントはカウンター手摺の本革巻きのマテリアル。
チェアも全てこの店のためのオリジナル。

『素材と空気を共鳴させる』

「ドキドキする大人のBARが欲しい。」

ススキノの通行量の多い路面に大きく間口を持つ50坪のBARである。ここしばらく低迷するススキノのナイトシーンに一石を投じるべくスタートした「本物を知る」ための大人の世界づくりを目指した。ここにしかない空気。時代とか流行とかとは一線を画したもの。昔、若かった頃憧れた。

キラキラしていて、鼻の奥をくすぐられる。
近づき難くて、どうしても踏み入れてみたい。
いつか…。

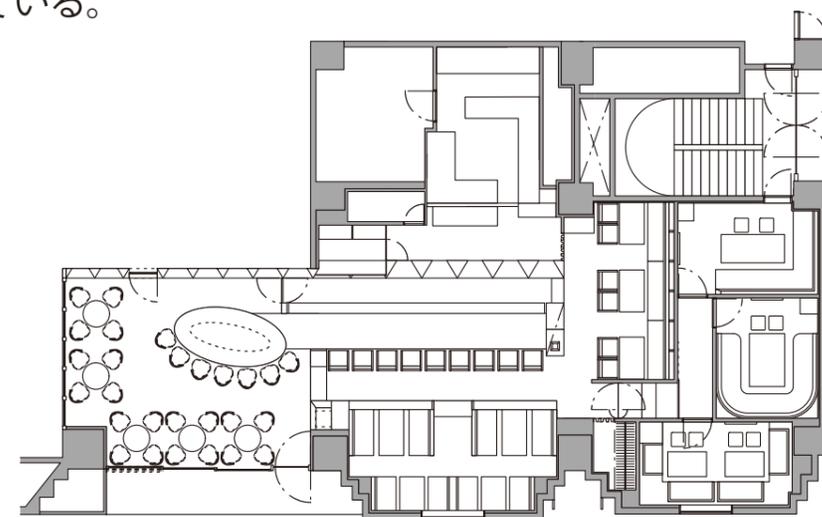
そんなステージ。感情をゆさぶる場。
選び抜いたマテリアルと職人の技はジャストのコントラストで共鳴し、他にはないオリジナルの味わいを生み出した。

光と影、軽と重、素と密。

と、様々なプロポーションの変化も交えて構成した空間がもたらす気分は圧倒的に豊かである。

その名のとおり11mの長いカウンターの端の隆起する力に天井から降りるクリスタルが呼応し宇宙をつくる。

これがススキノに動を生み出し、人の流れにも響き伝わることを願っている。





漆黒の中にゴールドが浮かぶコントラスト。麻布を墨染めしたオリジナルの照明がくつろぎを生み出す。



15mの長さのバックバーの最左は棚に見せたWCへ行くためのからくりドア。



人造研ぎ出しテラゾーの重さを支えるカウンターの腰はオーガニックなカーペットのラインで支柱を巻き込みその光が脚元を優しく包む。